



8月の青空の下、庭に

アサガオの花が咲いています



愛知県豊川市にて

パート15

朝日生命で出会った35歳の女性と、保険をきっかけに交際が始まりました。最初は仕事上のやりとりでしたが、信頼や安心感が深まり、自然と私生活にも心が通じ合いました。保険という縁が、人生の新たな章をもたらしてくれた気がします。

お互いに惹かれ合いながら、それぞれの立場や家庭、道徳心を大切にしていくため、浮気に発展することはありませんでした。淡い想いは心の奥に留め、日常の中で静かな友情として関係を育みました。時折すれ違った時に胸が高鳴るものの、その一線を越えることなく、尊重と信頼を重んじた大人同士の距

離感を保ち続けたのです。

しかしながら、彼女はさうした私に不満があるよううで、何となく一緒に飲みに行った時など帰る時には、素直に帰らない時もあり私に誘ってと言っているようで、私もフラフラとなる時もありますが、妻のかをの入院生活を思い出して、ぐっと我慢の日が続いていました。

一方妻の、かを純真無垢な人で、私にとつてまるで女神のような存在です。彼女は病気で何度も入院を繰り返していますが、その度に彼女の強さと優しさに感動します。愛しているというよりも、彼女に対する尊敬の念が強く、彼女の存在が私の人生にとって大きな支えとなつていきます。彼女の笑顔を見るときに、私は幸せを感じま

す。二人の女性を比べながらの私の生活は不思議な空間を味わっています。かをは決して人の悪口や愚痴をこぼしたことはありません。上品な性格で感情的になり大きな声を出したこともなく、いつもニコニコして鬱病で苦しんでいる時でも一人で悩み一人で解決しようともがいています。何か手助けができないかと思うのですが、一人の世界に入り込んでいくかを助けることはできません。ただ黙って見つめているだけの私は無念の気持ちですが、周りからはどうしようもありません。何か言いたいことがあれば聞いてあげられるのですが、それもあまり話したくないようでかを一人で悩んでいます。

私の仕事は相変わらず、学研のおばちゃんのコーチャーさんと教材の販売配布で毎日忙しく、また化粧品店は店員さんに任せ

っぱなしで、そんなに儲かってはいないのですが、損もないので続けています。私は43歳になつています。息子の和宜は小学4年生になりました。おばあちゃんのところにはいますが、いつか早いうちに親子が一緒に住めるようにと思つていますがかをが退院してくれば、その時には一緒に住む予定です。マンションで独身生活、ろくなことはないと感じながらの生活ですが、仕事にゴルフに夜はお酒に明けくれる毎日です。

ゴルフ場は車で15分のところに有ります。私はその会員権を1,000万円で購入しました。会員になるとワンランド5,000円程で回れます。会員ではないと15,000円はします。

具屋さんの社長さんで企画して20名ほどの会員と月一回コンペをします。

仕事も遊びも真剣に目一杯やっている時代ですね、よく身体が持つものと感じします。

ゴルフ仲間です。冬はスキーに行く人がいて、一度御嶽山(長野県)に連れて行つてもらつてから私もスキーに夢中になり、毎年冬にはあちこちのスキー場を回るようになりました。遊んでばかりですね。朝日生命の彼女(享子さんと言います)とは、主に夜一緒に食事をしていますが、彼女はゴルフはしません。スキーに誘ったことがありません。愛知県は中央道にいくつもスキー場があり日帰りで行けますので、仕事の合間にさーとスキー場に行きます。そうした時必ず享子さんを誘って行きます。彼女は家庭もあるのによく私の誘いに乗っ

てくれます。

私は仏教徒です。仏教の教えの中に「汝姦淫するなかれ」と教えられていきます。浮気をすれば地獄に落ちるようですが、その教えと浮気心とどちらが勝つか私は葛藤しています。

享子さんは色白で頭が良く、素敵な女性です。なんと言っても私に好意を持ってくれているということが私の胸を焦がす最大の原因です。しかし浮気をして無間地獄に陥りたくはないので、躊躇します。しないのが当たり前ですが、当時の私は煩惱の塊みたいになっていて、念仏も遠い昔のようで、欲望に振り回されている悲しい存在でした。

ある冬の日、享子さんを連れてスキーに行きました。私も享子さんもスキーは初心者ですが、特に私は転んでばかり、少し慣れてきて初心者コースを滑れるようになります。その日は曇りで中級者コースに挑戦している時転んで、足のふくらはぎあたりを痛めました。どうにも痛くてその後滑ることができず

に、スキー場の医務室に行き診てもらったところ、肉離れを起こしているとのこと、右足をす。医者が「冷やして安静にするように」と言われ帰りの車の運転はとも難しそうですね。享子さんも運転できません。雪道は初めてなので危ないと、その日はスキー場のホテルに泊まることになりました。私は松葉杖をつきながらの歩行です。風呂にも入れません。「享子さん、こんなことになって申し訳ない、一泊泊まることになったけど、家は大丈夫？」「大丈夫、今娘に電話しておいたから」「しかし部屋は一つしか空いていなくて、二人でひと部屋に泊まることになったけど大丈夫」「私は大丈夫ですが籠谷さんは足大丈夫ですか」「うん、一晩寝れば運転できるまでになるとおもうよ」と言って仕方ないので二人で部屋に入りました。ホテルといっても和室で畳の部屋でした。食事の為食堂に行き食事後に享子さんは風呂に行きましたが、私は風呂には入れず一人で部屋で休んで

いると「ああ！いいお風呂だった、籠谷さんも入れれば良かったのね」と呑気に今夜は二人きりの夜を迎えるのに、不安はないのか、私は足の痛いのも忘れ、今夜はどうなるのかそれが一番悩ましいことです。

籠谷 弘



歌声喫茶 8月・9月の予定

「洛西」(第1、3木曜日)

8月 両日とも休みです

9月 4日、18日

楽々亭第56回 8月の予定

8月は休みです

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。